

平成29年度第4回秋田市小・中学校適正配置推進委員会 会議要旨

日 時：平成30年3月14日(水)

午後3時～午後4時

会 場：秋田市役所5-A会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

○事務局から第3回適正配置推進委員会における検討内容について報告した。

4 議 事

(1) 学校配置素案（案）について

適正配置推進委員会におけるこれまでの検討を踏まえ、推進委員会として作成した学校配置素案の原案について、内容を確認した。

[委員からの意見等]

○委員長 資料1は、適正配置推進委員会における前回までの議論や検討を踏まえ、推進委員会から教育委員会に提出する学校配置素案の原案である。この内容について、委員からのご意見を伺いたい。

○委 員 考え方2の説明で、2019(平成31)年から地域協議を開始するとの記載があるが、この地域協議は、現時点でどのような形で開催することを想定しているのか確認したい。また、今後、コミュニティスクールの導入を検討していると思うが、これと学校適正配置の取組や地域協議がどのような関係となるのか、考え方を教えていただきたい。

○事務局 地域との協議は、7つの地域ブロックごとに、保護者、地域住民、学校関係者、教育委員会が参加する協議の場を設け、意見や情報を交換しながら、地域における将来の学校の姿を考えていくという手法を想定している。そしてこの協議は、地域の事情により進み具合や開催頻度などに差が生じることもあり得るものと考えている。

コミュニティスクールとの関係については、直接的にどのような関わり方となるか不透明な部分もあるが、学校と地域が連携していくという方向性は一致しているので、コミュニティスクールの取組と重なる部分が出てくることを想定している。

○事務局 地域協議は、全ての地域ブロックで一斉に開始したいと考えているが、その際、どのような方々に協議に参加していただくかが

課題であると考えている。地域協議の進め方や体制のほか、協議に参加していただくメンバーのあり方についても、来年度、推進委員会で検討いただきたいと考えているが、今後、地域と学校の連携が深まっていく状況も踏まえ、どのような構成で進めていくことが望ましいのか、委員のみなさまからご意見をいただいてまいりたい。

○委員 コミュニティスクールの導入により、保護者や地域の方が学校経営に参画するようになれば、より地域と学校の関係性が密着していくイメージがあるが、学校の統廃合を進めることにより、こうした関係を反故にしてしまわないか心配である。

○事務局 コミュニティスクールは、地域の各団体の代表者が集まった学校運営協議会を中核としている。将来、学校の統合が具体化した場合は、両方の学校運営協議会の委員が中心となって統合に向けた話し合いを行っていくことになると考えている。そして、統合後の学校では、両方の委員がそのままコミュニティスクールを形成していくことになる。そうなると、どちらかの学校の関係者がいなくなったり、伝統や文化を失ったりということではなく、統合後も両方の学校文化、地域文化を大事に継承し、保っていくことができると考えている。統廃合が具体化していくほど、地域における話し合いが重要になり、学校運営協議会の委員がその中心を担うことになると思うが、様々な協議を進めていくにあたり、学校と地域関係を壊すのではなく、一緒になっていくという方向になると感じている。

○委員長 地域協議についてはまだ先の話であるが、広く参加者を募るようなものから、メンバーを確定した協議会へ徐々に発展していくような展開もあると思う。そして具体的に統合対象の学校が決まれば、学校同士の協議会などを立ち上げていくような進め方になるということだろう。

○委員 これまでも推進委員会で意見が出されたが、より多くの市民意見を集めること、つまりより多くの市民に関心を持ってもらい、説明会などに参加してもらえるような工夫が必要でないか。

○事務局 その点は事務局としても問題意識を持っている。どのような手法を採ればより多くの市民に参加してもらえるか、創意工夫していきたい。保護者へ周知するため、PTAに協力してもらうことなども検討していきたい。

○委員 学校適正配置の取組は、時間軸というものを考慮しないといけない。このことは、当事者性が変わる、つまり現時点では今の保護者が中心になるが、5年後、10年後の姿を考えるとときには、将来の保護者になる人たちに考えてもらう必要がある。未来をどうイメージするかということは、相当早い段階から強いメッセージ

として打ち出していく必要があるのではないか。

○事務局　　ご指摘のとおり、現段階では、多くの市民が将来の学校の姿をイメージしている状況にはないと思う。したがって、少子化が進むことにより、現在の学校が小規模化していく姿をいかにイメージしてもらえるか、資料の作り方や説明の仕方などについて、工夫していきたいと考えている。

○事務局　　6月に素案を公表する予定であるが、これが公表されれば、議会における議論や報道などで取り上げられることが多くなると考えている。つまり、非常に注目を集めることになると思うので、これを好機と捉え、将来をみんなで考えましょうというメッセージを打ち出していくことも考えたいと思う。

○委員長　　20年後の姿を考えることでも、そこに至る過程は常に考えていかなければならないので、決して遠い未来の話ではない。事務局にはぜひ工夫をしていただきたい。

○委員　　昨年の説明会の参加状況を見ると、地域によっても意識に差があるように思う。学校の適正配置は特定の地域に限ったことでなく、秋田市全体の未来図を考えることなので、こうした考え方も地域への説明と平行して周知していけば良いと思う。

○事務局　　素案では、各地域の学校数の目安を示すことになる。これを地域の方々がどのように捉え、考えていただけるかによって、関心を持って議論に参加していただくことにつながっていくと思う。

○委員　　小学校は厳しい状況にあると感じている。1学年から6学年まで、学年に1クラスしかない学校では、異学年の交流はあるものの、6年間クラス替えがなく、子ども達にとっても保護者にとっても望ましい環境にあるとは言えない。こうした状況を保護者がどう考えるか、どう感じてもらえるかがポイントになっていくのではないかと。市内全域で子どもの数が少なくなっている現実を考えると、どの地域ということだけでなく、全ての地域で早いうちに検討していく必要があると感じる。

○委員　　今の保護者は、自分の子どもが卒業すれば関係なくなると考えているかもしれないが、その子どもが保護者になったときに苦労する、つまり孫の世代の問題なのだという意識を持ってもらいたい。そうした観点から、ある意味で危機感を煽るぐらいの気持ちで取り組んでいかないと、なかなか伝わらないのではないかと。

○事務局　　先行して取り組んでいる他都市でも、市民に危機感を認識してもらうための工夫をしている事例がある。そうしたことも参考に取り組んでまいりたい。

○委員長　　危機感を感じてもらうことは重要であるが、結局のところ、若者が戻ってきて子育てをしてもらわないと、問題は解決しない。このことが実に難しく、悩ましいところである。

確認だが、この素案(案)を踏まえて教育委員会が素案を決定するということで良いか。

○事務局 推進委員会の素案(案)を受け、教育委員会として検討し、素案を決定する。次回の推進委員会に教育委員会が決定した素案をお示しする。

(2) その他
(協議事項等なし)

5 閉 会

以 上